

ただちに国会を解散して、国民の信を問え 応能負担で社会保障の拡充を！

ほっかいどうの社会保障

2012年10月31日

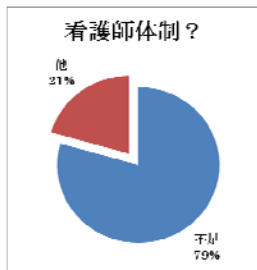
北海道社会保障推進協議会 Tel:011-758-2648 FAX:758-4666

全道各地から訪問看護師が集まり、改善求めて道と懇談

10月26日、北海道民医連の訪問看護部門が全道各地から18名集まり、制度の改善を求めて北海道と懇談しました。

今年度の診療・介護報酬の同時改定以降、医療機関の在院日数の短縮、在宅医療への推進がすすみ、重度者や医療依存度の高い方が在宅で療養するケースが増え、患者・利用者をはじめ訪問看護を担当する職員や事業所に深刻な影響がでています。

今年7、8月「介護に笑顔を！道連絡会」が行った北海道の訪問看護ステーションを対象としたアンケート(78件)結果も踏まえて、訪問看護の実態や課題(①看護師不足、②訪問看護の役割の啓発、③がん患者への経済支援、④重い患者負担・支給限度額)について、参加者からも現場の深刻な実態を告発し、改善を求めました。



アンケートでも79.5%の事業者が看護師不足と答えています。懇談では、「市内に訪問看護ステーションが少なく、看護師の確保もできず新規の利用者が受けられない」などの事例が報告されました。40歳未満のがん患者が介護保険を利用できないため、負担は3週間で8万円の負担だった事例、支給限度額を超えた分も負担できない人や限度額を超えることができない生活保護の利用者の例なども告発し、経済的に心配なく、在宅でも療養できるように制度の改善を求めました。

道の担当者からは、がん対策で一番希望が多いのは負担軽減、40歳未満の患者は介護保険の対象になっていないことも踏まえて、がん対策条例具体化の中でも検討したいと述べました。今後も、課題の解決に向けて、実態や意見など懇談していただくことも確認しあいました。参加者から「初めて道庁に入った」「実態が知られていない」「市町村にも働きかけたい」など感想も出されました。



福祉保育労 介護や福祉の改善求めて、道と交渉

10月25日、福祉保育労は、介護・障がいの政策や福祉の人材確保について改善を求めて、道と交渉しました。事前に提出していた要求書に対する回答を踏まえて、組合から要求や質問・意見をのべ、道から回答を引き出しました。

福祉の人材を確保する必要性では一致したものの、道としての具体的な案はなく、前進回答は得られませんでした。各分野からも、現場実態を訴え、労働状況をしっかり把握するよう、また、監査時に書面上だけでなく、労働法規を遵守できているか指導を行うよう要求しました。(福祉保育労より)



苫小牧 29日市と懇談、11月中旬にはキャラバン予定



10月29日、苫小牧社保協は、社会保障制度などの改善を求めて、苫小牧市と懇談しました。

今回は、7月に提出した17項目の要望書に対する市の回答(8月)を受けて、生活保護、孤立死対策、就学援助、特定健診、国保一部負担減免、自然エネルギーなどの7項目に絞って行いました。

同社保協では今後、キャラバン行動を行い、白老町(11/12)、安平町(11/13)などとも懇談する予定です。

道社保協自治体調査も利用し、自治体との懇談・要請行動の具体化を！